

令和7年度 市政報告会【まとめ】
(実施日：令和7年5月31日・6月8日・6月10日)

【はじめに】

- ・今年9月7日、日曜日に第46回九都県市合同防災訓練が幸手市で実施される。大変大規模な防災訓練で、1万人以上の参加を予定している。地震等の被害を最小限に食い止めるために、九都県市相互の連携協力体制の充実・強化を図るとともに、住民一人一人の防災知識や減災への備えの向上を目指して実施する。
- ・元日に石川県能登半島地震が発生した。幸手市は、職員を被災地に派遣するなど被災地支援を実施した。その時の避難所運営支援などの経験と併せて、今年度の九都県市合同防災訓練でも市民も職員も多くの貴重な経験を得られる。
- ・防災・減災において「自助・共助・公助」の考えのもと市民・地域・行政機関の連携が大切。この連携を推進していくことは、子どもの健やかな成長を家庭だけでなく皆で関わることや、高齢者の見守りネットワークの推進など、住み良いまちづくりにも繋がっていく。市民と共に未来志向のまちづくりに力を注いで行きたい。
- ・今年度は、他にも戦略的に進めていかなければならない事業が多くある。10年後、20年後の幸手市を左右する重要な時期である。「住みよいまち」「住んでよかった」と思って頂けるまちの実現を目指して、緊張感と使命感を持って進めていく。
- ・令和7年度の一般会計当初予算額は、192億9,000万円となり、令和6年度と比べまして21億3,500万円、率にして12.4%の増額となる過去最大の予算を編成した。

国の動向や経済情勢を注視するとともに、広い視野で市民のニーズを把握し、限られた財源を効果的かつ効率的に配分して、市民の皆様、幸手市の将来に希望を持っていただけるよう、「市民本位の行政」「未来志向のまちづくり」の行政運営を行うための予算として編成した。

【こども・子育てを応援】

- ・今年度から新たに「こどもの居場所づくり」の支援を行う。こどもが安全・安心に過ごすことができる多様な居場所づくりが大切であることから、こどもへの食事・学習支援のための活動に対して補助金の交付を行う。
- ・子育て世帯への「経済的な支援」として、令和7年度もハッピー・スマイル推進事業を継続し、未就学児がおられる世帯に、幸手産玄米を未就学児1人あたり最大60kg配布する。
- ・学校教育環境の整備を進めていく。令和9年4月に、「権現堂川小学校」、「吉田小学校」、「八代小学校」及び「東中学校」を再編して、市内で初めての義務教育学校となる「東小中学校」を現在の東中学校に開校、及び、「さかえ小学校」を「上高野小学校」に統合する。
そのことを踏まえて、今年度は、改修・空調設備を設置する工事等を実施する。
引き続き、開校に向けた協議を行うため各準備委員会及び専門部会を開催し、地域の皆様から御理解・御協力いただきながら進めていく。また、学校跡地の利活用について、市民の皆様のご意見を伺いながら検討を進めていく。

【安全・安心なまちづくり】

- ・九都県市合同防災訓練を行う。県営権現堂公園を会場に、幸手市と埼玉県が主催となり、多くの組織・団体そして住民が参加して、様々な訓練を実施する。また、企業などにも協力いただき、防災展示ブースが出る予定である。詳しくは、今後、広報紙やホームページ等でお知らせする。(8月号広報紙に掲載)
- ・8月23日土曜日には九都県市合同防災訓練のイベント「幸手市防災フェスタ」を北公民館で行う。応急手当講習や、はしご車・白バイなどの展示、消防音楽隊の演奏など盛り沢山の内容である。
- ・老朽化した市役所庁舎の整備を行うため、幸手市庁舎整備基本計画を

令和8年度末までに策定する。皆様のご意見も参考にしながら、安全・安心な庁舎、賑わいの拠点となり親しまれる庁舎など、昨年度策定した基本構想でお示しした5つの基本方針を実現できるよう進めていく。

【健康で安心して暮らせるまちづくり】

- テレビゲームを利用した高齢者向けのデジタルスポーツ、題して「健幸！デジスポ倶楽部」を実施する。フレイル予防、交流の創出を目的として、ボウリング場でプレーしているような感覚で健康づくりができる活動である。
- 移動販売車の運行支援を行う。移動販売車は、生鮮食料品、日用品、生活必需品を軽トラックに積載して、地域を回り、積載されていない商品でも、母体である店舗での取り扱いがあれば、注文できる。本年4月1日から新たな運行ルートができて、販売場所も増えた。多くの人にご利用いただき、移動販売車が外出のきっかけやコミュニティの場としても地域に定着しますようご活用いただきたい。
- 市内循環バスの運行と、令和8年6月末まで乗合型デマンドタクシーの実証運行をしている。公共交通は、日常生活に欠くことのできない移動手段で、特に超高齢化社会の中、高齢者等の交通弱者の外出手段として重要な役割を担っている。
今後の公共交通の利便性の確保のため、利用実績を分析し、昨年度立ち上げた、「幸手市地域公共交通あり方検討会」などの様々なご意見を踏まえながら、より良い公共交通の実現に向けて検討していく。

【活気あるまちづくり】

- 令和8年に開催の「ねんりんピック彩の国さいたま 2026（ニセンニジュウロク）」で、幸手市は囲碁の会場になっている。その準備やリハーサル大会を今年度行う。囲碁の本因坊を三代続けて輩出するという全国でも例を見ない貴重な文化遺産を基盤とし、「囲碁のまち さって」としての囲碁文化の薫るまちづくりにふさわしいイベントにしたい。

- ・昨年度に、「米どころ幸手」の更なるブランド化を図るべく、付加価値の高い有機米の栽培の推進を目的に、市内生産者が共同で利用する有機農業に適応した、紙マルチ田植え機の整備を支援し、本年4月には、その田植え機を使用した有機米の栽培が開始された。
- ・株式会社イトーヨーカ堂で全国初となる単一市町村を産地とする「幸手市産コシヒカリ」を商品化し、昨年度は、トップセールス（市長が店舗で販売促進）を行った。今年度も、同様に実施できるよう準備を進めている。
- ・農業後継者対策として、独立就農を目指す地域おこし協力隊員を今年度2名採用した。地域おこし協力隊には、独立就農に向けた研修や幸手産農産物のPR活動など、地域農業の活性化に向けた活動に取り組んでいる。
- ・幸手駅西口地区内の道路の大半が狭小であり、公園などの公共空間も十分に確保されていないなど、交通面、防犯面などにおいて、課題をもっていた。

これらの課題に対し、幸手市では幸手駅西口の開設にあわせて、安全で快適な住環境の整備を行うため、幸手駅西口土地区画整理事業を実施について埼玉県から事業認可を受け、物件移転や道路等の工事を進めている。
- ・吉田幼稚園跡地利用は、地域の協力があって吉田幼稚園が設立された背景や、地域の人からの「取り壊さないでほしい」といったご意見を踏まえ、「地域への配慮」を盛り込んだ跡地活用方針を策定し、民間事業者による活用に向けた準備を進めている。（公募審査により選定された、優先交渉事業者と契約に向けて調整中）
- ・映画の制作は、県内初の事業で、県の補助金・寄附金等を活用し、市の財源を使用しない方向で進めている。題材の検討に市民が関わるなど「参加型」で制作する幸手市を舞台とした映画である。広く全国に幸手市の魅力を伝えるだけでなく、ワークショップなどを通じて、地域への愛着を高める。そして、活気あるまちづくりへの積極的なシテ

イプロモーションと、観光振興等への推進が関係人口の増加につながると考えている。

【幸手市内大規模プロジェクト】

1 神扇地区における幸手中央地区産業団地の拡張事業

新たな産業誘導の受け皿を創出するため、幸手中央地区産業団地の東側に隣接する神扇地区において、約13ヘクタールの産業団地が整備される。

この産業団地の拡張により、新たな企業立地による雇用が創出されること、また、道路や公園などのインフラ整備による都市基盤の向上が期待される。

2 神明内地区におけるJA全農による「ゆめファーム全農」事業

全国農業協同組合連合会（JA全農）が、農地約9ヘクタールにおいて、JA全農では全国初となる、施設園芸栽培技術の向上と新規就農者の人材育成を行うことを目的としたトレーニングセンターを設置する。

この施設では、軒高6メートル程度の温室で、トマト、キュウリ、ナスなどの野菜を養液で栽培を行う。

現在の事業の進捗状況は、第1期温室施設の建設に向けた造成工事が行われている。この事業により、幸手市から新たな就農者が誕生し、市内で新しい農業に取り組んでいただくことで、幸手市の農業の発展に繋がるものと期待している。

3 上高野地区における農業生産法人による土地改良事業

当該農業生産法人は、静岡県などで実績があり、リーフレタスやトマトの栽培をしており、全国主要なスーパー等に出荷されている。

幸手市では、農地約30ヘクタールの土地改良事業を実施し、その事業区域の7割において、温室による施設園芸野菜の生産を行う事業となる。地域農業が発展するとともに、幸手産農産物の全国展開が期待されることから、引き続き全面的にバックアップする。

4 惣新田地区における「道の駅総合複合施設」事業

県が事業化した都市計画道路惣新田幸手線バイパスの整備（国道4号バイパスに接続され、圏央道幸手インターチェンジから国道4号バイパスまでが4車線の幅の広い道路で接続）と東埼玉道路の延伸（国道4号バイパスに沿って圏央道五霞インターチェンジまで）が構想され、幸手市の交通の利便性が飛躍的に向上する。

このような背景を踏まえ、昨年度は様々な民間企業へ聞き取りを行い、都市計画道路惣新田幸手線バイパスエリア周辺に対する市場のニーズ調査を実施した。この調査において企業より得られた情報を踏まえ、今年度は道の駅を核とし、農業と連携した複合施設の整備を進めるため、基本構想の策定に着手している。

【まとめ】

- ・おもな事業を御紹介しましたが、様々な課題に日々、全力で向き合い、各分野において事業、施策を展開して、幸手市の新たな魅力を地域の活性化につなげていく。
- ・市民の皆様と誠心誠意向き合いながら、市の将来像である「みんなで作る 幸せを手にするまち 幸手」に向けて全力で取り組んでいく。
- ・公約の市内小中学校の給食費無償化は、令和8年度から実施をする予定で進めている。他にも公約に掲げた事項の実現に向けて、全力で取り組んでいく。